

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまづきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGEは……

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

新会長挨拶

飛躍のための第一歩

おかげさまで NPO 法人 EDGE も 4 期目に入ります。皆様の暖かい励ましと多大なるご協力と理解に支えられてここまでディスレクシアの啓発活動と支援を推進してこることができましたことを深く感謝いたします。

5 年前にディスレクシアのことを知り、いかに日本で知られていないのかを目の当たりにして、啓発のために何かをしなくてはと言う一念でここまで進んで参りました。思い返せば当時はインターネットで日本国内の検索をしても、ディスレクシアのキーワードでは一つもヒットしない状態でした。(現在は約 1100 件)

EDGE にはこれまでの活動の中で培ってきた財産が多岐にわたって、たくさんあります。様々な専門家や LD の関連した団体、個人とのつながり、数々の書籍や資料、そして相談にみえた方たちの悩み、サポーターからの助言、一

般の講習者からの素朴な疑問、いろいろな活動を通じて得た教訓。

ディスレクシアのサポートを目指す NPO として日本で一つしかないということで寄せられる期待に応えるべく、長期的な展望に立った上で現実的にできることから着手してまいります。

これからも尚一層のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

(藤堂)



(イートン校ディスレクシア担当の先生と英国視察旅行メンバー)

怠けてなんかない！

ディスレクシア—読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。



10人の親子のインタビューを通してディスレクシア克服への道のりと生き方を模索する姿を紹介。ひと言ひと言に胸がしめつけられるが、希望をもてたときの晴れやかさは格別だ。専門機関での研究や教育・治療の現場も徹底取材。

※四六版
 ソフトカバー256頁
 本体1,300円(税別)

上野一彦氏
 (東京学芸大学副学長
 日本LD学会会長)
 すいせん!

品川裕香◎著

ADHDへの理解を深める絵本

オチツケ オチツケ こうた オチツケ

—こうたはADHD



ADHD(注意欠陥多動性障害)とよばれる子どもの本人の視点から分かっていてもコントロールできない本人の気持ち、認められることなどを伝える絵本。

●B5/32頁/本体1,300円+税
 さとうとしなお・作 みやもとただお・絵

岩崎書店

〒112-0005東京都文京区水道1-9-2 TEL.03(3812)9131
 [HP] <http://www.iwasakishoten.co.jp>

パーソナル・ストーリー No.4

～EUの研修で来日したE・タマメスさんに聞く～

一昨年、昨年とEDGEの事務局に時折素敵な外国人カップルが姿を見せていました。2人はご主人のエマニエル・タマメスさんがEUの研修プログラムをうけるということで、スペインから来日していたのですが、タマメスさんがディスレクシアであることから、EDGEの存在を知り訪れるようになったといいます。
(取材・文＝フリーライター代居真知子)



僕はディスレクシア人

「英語はビートルズとローリングストーンズで覚えた」

最近、教育制度が幾分変わったスペインですが、タマメスさんは4歳で就学した後、しばらくしてディスレクシアの傾向があると言われたそうです。

「父が学校に呼ばれて『息子さんはディスレクシアのようです。でも心配しないで下さい』といわれたと聞いています。子どもの時のことなのでよく覚えていないのですが、友達がみんなボールペンを使っているのに僕は鉛筆しか使わせてもらえなかったことはよく覚えていますね。字を書き間違えるから、使わせてもらえなかったんです。

僕は読み書きと算数が苦手だったんですが、特に読んだり書いたりすることに問題がありました。ベルクラ(映画)をベルキラと言ったり・・・なにしろNとCとQの読み方ができなかったですね。スペイン語にはスペルが違うのに、同じ読み方をするものもあるし・・・文字を入れ替えて読んでしまうことが多かったです。」

タマメスさんによれば、スペインにはディスレクシアの子どもの学習をサポートするシステムが政府の教育機関としてあり、テストをしながらその子どもにあわせた支援をしているそうです。タマメスさんも子どもの時は普通のクラスに通いながら、ディスレクシアの子どもをサポートす

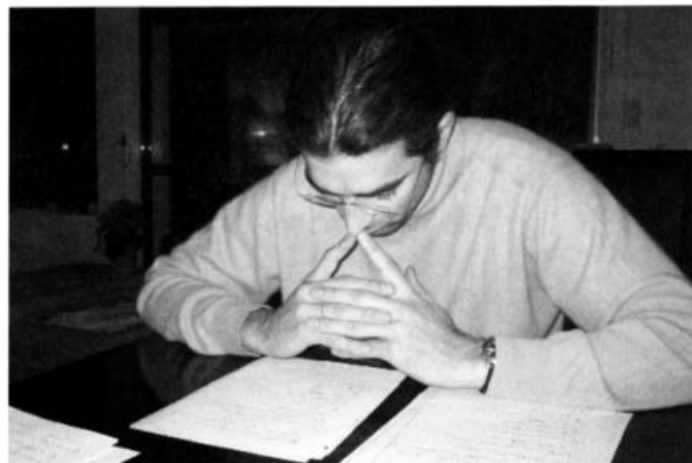
るクラスに通ったそうです。

「特別なクラスで勉強を教えてくれるだけでなく、4歳から17歳までの間にいろいろなテストがありました。その結果から父親は『タマメスさんのお子さんは外国語を習得するのはかなり難しいです』と、ある時言われたそうです。で、うちの父と母はどうしたと思います？毎年夏休みになると、いろいろな国に僕を連れて行ったんです。そのお陰で外国語が苦手になることはなかったですね。フランス語は難しかったけれど、生活をしたり、授業を受けたりすることはできるようになりました。あと、英語はビートルズやローリングストーンズのレコードで覚えました。聞くことには問題がないですから・・・」

タマメスさんはスペインの大学でビジネスの勉強をしたあと、2年間働き、フランスやスコットランドでも勉強したといいます。

「日本語学校の先生には感謝していますが・・・」

日本に来る前に3年間いたスコットランドではディスレクシア、外国人ということで、学習面でも生活面でもサポートシステムがあったと言います。なので、日本での研修の話が持ち上がった時、間に入った人からの話で、日本は少なくともディスレクシアに対する理解はある国だと思い、2002年の5月に来日し、6月から先ず日本語学校に通い始めました。



研修プログラムの最初の1年間は日本語学校で日本語の勉強をするということでした。それで指定された学校に行ったのですが、まず担当の先生だけでなく、学校にはディスレクシアのことを知る人は誰もいませんでした。留学前にEUの方から、ひらがなとカタカナは覚えてきて下さいといわれ、一生懸命覚えようとしたのですがダメだったので、その理由を話したかったのですが、ただ勉強不足でできないように思われたようです。だから先生はすごく厳しかったです。」

日本語学校の先生を始め、周囲の人たちはディスレクシアについて説明しても、ハンディキャップのある人ととらえるだけで、きちんと理解してくれなかったようです。「私はみんなと同じ方法では覚えることはできないので、勉強の前に先生と勉強の仕方について話し合いたかったんです。今日本語を勉強しようとしているのはスペインで学校に行き始めた4歳の私ではなく、29歳の大人の私なのですから。でも、理屈はいいから先ず覚えて下さいと言われるばかりでした。

何のためにこんなに日本語を勉強しなくちゃならないの

かと、思ったこともずいぶんありました。でも朝から夕方までの5時まで毎日学校で勉強しました。そして家に帰ってからも……。書くことが辛いのに、書くことを強要される。読み書きで成績が決められるので、読み書きができないと点数をもらえない。その成績は、その後の企業研修にも影響してくる……。辛かったです。」

けれどもタマメスさんは持ち前のポジティブ思考と明るい性格で、辛い時期を乗り切りました。現在は企業研修も終えて、奥さんと、そして日本で誕生したベビーと一緒にスペインに戻られています。

「今まで勉強したデザイン、エンジニア、マネジメントを生かす仕事として、例えば繊維関係でデザイナーが考えた製品をエンジニアに伝え、製品化するような仕事ができればと思っています。これから研修にくるディスレクシアの人が日本語を楽に学べる環境が早くできることを願っています。いろいろとありましたけれど、日本語の先生には今ではとても感謝しています。僕のようなディスレクシア人に言葉を教えることは本当に大変なことですから。」

Voice from Members

名古屋の岡部昌子さん(会員)が名古屋市の特別支援教育のガイドライン作りに対して意見書を出しました。ここに初めの部分の抜粋を掲載いたします。ディスレクシアとは、意欲を育てるとは、小学校3、4年生までに見つけることが急務、教育と医療からの気づきのチャンスを、子供の必要度に応じた学習方法を、現状と今後の各章で自らの体験を元に分かり易く書かれています。意見書の全文は、近々EDGEウェブサイトに掲載する予定です。

■抜粋

名古屋市内に住む、13歳の軽度発達障害の息子を持つ母親です。

アスペルガー症候群を含む高機能広汎性発達障害やADHDをもつ子供に、LD(学習障害)を併せ持つ場合が多くみられます。LDのほとんどを占めるのが、読み書き困難症(ディスレクシア Dyslexia)です。

中枢神経の機能不全の為、理解力はあるのに読み書きに困難を生ずるのです。読むことはできても、書くことができない場合(書字障害)と、読みだけができない(読字障害)場合があります。

息子は、DAMP(ダンプ)症候群(Deficits attention, motor control, and perception)です。これは不器用(発達性協調運動障害)、注意集中困難(ADHD)、読字障害(LD)、こだわり(広汎性発達障害)を合わせ持つものです。

それぞれが重い症状にはなっていないものの、できないことがいろいろあり、意欲を失わないように、気を付けなければなりません。

小学生低学年において、息子の困難は、親にも理解することができませんでした。特に彼は、読むことを小学3年生まで拒否していました。漢字は読めるようになっていくのに、なぜかひらがながいつまでたっても、読めるようにはならないのです。不器用にもかかわらず、折り紙を独自の折り方で、毎日折り続けるのです。小学4年生で中学受験用の平面図形の問題を事もなく解いてしまうのですが、その問題文のひらがなを正確に読むことができなかったのです。低学年のうちには構音障害もありました。高学年になりましたも、言葉を使って説明をすることができず「あの、あの、あの、」の連続になってしまいました。また音読が普通にできるようになりましたのが、小学5年の3学期でした。この様にLDの子供の成長は、アンバランスなのです。

LDの子供に対して、これまでの教育と医療からは、彼らの「意欲を大切に！」とよく言われます。しかしながら子供にとりましては、読み書きができないまま意欲を保つ、などということは普通学級では、現実には不可能なことなのです。それほど子供の社会は甘いものではないのです。やはり現実的な対応として、読めないものが読めるようになる。自由に文字を書けなければ、工夫された道具を使う

等、ディスレクシアに真正面から取り組む必要があります。

我息子の場合は、一般の学習方法とは異なる、彼の脳にあった学習方法を見つけられたこと。周囲の応援と理解があったこと。それらが息子の意欲を落とさず、困難をかかえながらも、私立中学受験を突破し、今のびやかな学校生活を送ってられる要因だと思います。これはがんばれば、誰もが同様になるということでは全くありません。自尊心が一時は下がってしまったものの、あくまでも本人の剛直なまでの意志と、家族の協力、息子の状態を理解した塾や学校の先生方、医療関係者等に支えられた大変稀な、極めて恵まれたケースと言えるでしょう。中学1年生の現在、学校の先生方のサポートと理解、プリズムレンズのメガネ使用、毎日自宅での音読

トレーニング、そして医療機関からの投薬に助けられています。常に偶然の取り合せが、彼を育ててきた様に思えるのです。しかし考えれば、大学教育の取り組みだけでも、その後では、大いに評価される点がある様に、教育や医療での今後10年には、偶然ではなく、彼らに好ましい環境を与えることができるのではないのでしょうか。

これらの子供達や親を支えている会がいくつかあります。東京の“NPO EDGE”（エッジ）もその一つで、ディスレクシアの研究者、医療関係者、教育関係者、本人たちが国内外にかかわらず会員となり、啓蒙、サポート、教育的支援をしています。また名古屋には、“ディスレクシア名古屋”という、親の集いもあります。私はこれらに関わっております。

NPO・EDGE 第3回 総会 報告

2月22日(日)、NPO・EDGE 総会がみなとNPOハウス大会議室において行われました。

出席者数 18名、委任状提出 14名、書面表決書提出 22名、合計 54名で決議事項が承認されましたことをご報告いたします。

総会 議題

- 平成 15 年度活動報告
- 平成 15 年度収支報告
- 役員（理事 監事）選任
（理事に藤堂栄子氏、堀口順子氏、山根真智子氏、監事に星野巖氏）
- 平成 16 年度事業計画
- 平成 16 年度収支予算
- 第 2 部として「英国視察報告会」を開催いたしました。

平成 15 年度 事業報告

（平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで）

事業の成果として以下の通り。①ニュースレターを年 2 回、メールマガジンを隔週 24 号発行、またマッケンジーソープ 絵画展を開催し、ディスレクシアに関する世の中の理解が深まった。②業務受託を通じ、外部有識者と協働で学習障害者向け教材の開発が出来た。③LD・ディスレクシア入門講座を 5 回行い幼稚園から高等学校までの教職員、PTA 等延べ約 320 名が参加、学習障害の疑似体験及び学習が実施出来た。④相談窓口を開設し、悩みを持った会員へのカウンセリング（8 件）が出来た。

平成 16 年度 事業計画

6 月までを助走期間として下期（7 月以降）の活動の地固めをする。7 月に臨時総会を開催し具体的な事業計画の承認を諮る。具体的には、6 月まではこれまでの蓄積を元に、メルマガ（月 1 回）、ニュースレター（総会後に 1 回）、相談窓

口（毎週火、木午後）、講演、構造改革（組織、財源、研究開発、会員に対するサービス等見直し）、4 月国際ディスレクシア・シンポジウムの協力をする。7 月以降は、8 月 LD 学会参加、啓発用 CD 作成・配布、ディスレクシアチェックリスト・教師用アセスメント開発、一般向けセミナー開催を予定。

第 3 期決算 (15.1 ~ 15.12)			
収入の部		支出の部	
科目	金額 (千円)	科目	金額 (千円)
会 費	779	講演会・研修会費	1,492
入 会 金	55	書籍等購入費	41
業 務 受 託	4,200	外 注 人 件 費	2,658
寄 付	69	広 告 費	727
研修会・講演会	2,213	人 件 費	2,085
書籍販売等	1,378	通信費・交通費等	1,175
助 成 金	1,664	事務用品・消耗品費	541
そ の 他	0	租 税 公 課	85
		家賃・リース料他	1,875
		借入金返済	2,000
収入計	10,358	支出計	12,680

第 4 期予算 (16.1 ~ 16.12)			
収入の部		支出の部	
科目	金額 (千円)	科目	金額 (千円)
会 費	981	講演会・研修会費	604
入 会 金	255	小冊子作成費・印刷費	700
業 務 受 託	840	外 注 人 件 費	1,500
寄 付	1,000	啓発用 CD 作成費	500
研修会・講演会	400	広 告 費	650
書籍販売等	200	人 件 費	1,992
助 成 金	3,000	通信費・交通費等	375
相 談 窓 口	600	事務用品・消耗品費	90
そ の 他		租 税 公 課	90
		家賃・リース料他	1,023
収入計	7,276	支出計	7,524

千円未満四捨五入

新理事、新監事の横顔

この度就任が決まった新理事と新監事に、
EDGE との出会いや今後の抱負などを伺いました。みなさんの横顔をお届けします。



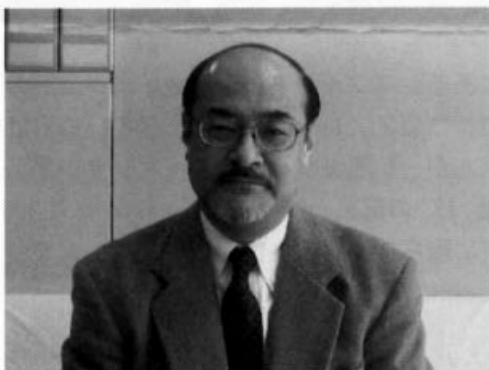
堀口順子氏 (理事)

ディスレクシアとの出会いは「ちょっと変わった元気な目の輝いている子どもがいるぞと思ったらわが娘だった」ということです。次女は、出生時のトラブルにより熱性痙攣や意識障害、言語習得にも困難が生じ、学校生活でのディスレクシアへの無理解によるいじめや不当な扱いに直面しました。LD やディスレクシアはその見分けが難しいだけに、本人が苦しむこととなります。それでも母娘でいくたびもの困難を乗り越えられたのは、娘の元気と強さがあったからこそです。新理事としての抱負は、LD やディスレクシアの理解を広めるとともに、同じ悩みを持つ子どもが学びやすい環境づくりや、周りの人たちとお互いに協力し合えるやさしい社会づくりに関わっていきたいと思います。



山根真智子氏 (理事)

以前より生活協同組合の活動を通してLD やディスレクシアの知識はありましたが、平成14年7月にNPO 事業サポートセンター（現、事務局長）として「みなとNPO ハウス」に入居しEDGE と出逢うことにより、ますます深い関心を持つようになりました。それ以来、サポートセンターへ全国から訪れる行政関係者に、EDGE を知ってもらいたいと、EDGE を紹介してまいりました。新理事としての抱負は、LD やディスレクシアについてより多くの人に正しく理解してもらうこと、さらにEDGE の会員、ボランティア、また様々な協力者の皆さんのそれぞれの力がEDGE の活動に活かされるようなしくみ作り（組織マネジメント）に取り組みたいと思います。



星野 巖氏 (監事)

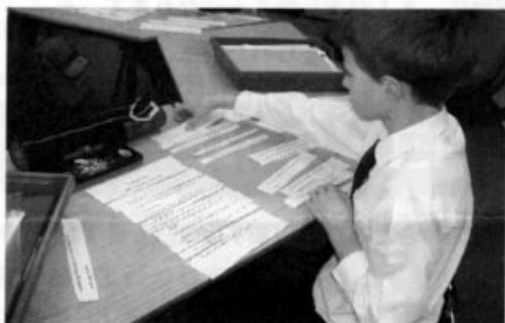
EDGE 会長の藤堂さんとは大学の同級生です。藤堂さんからディスレクシアの話や藤堂さんのご子息の話を聞いて「自分にも思い当たる節があるぞ」と気がつき、ますます親身になってディスレクシアのことを考えるようになりました。そういう経緯でEDGE の設立の頃からサポートを続けてきました。新監事としての抱負は、EDGE がこれからLD やディスレクシアの正しい理解と教育的なサポートのためにより良い活動が出来るように、EDGE の基盤づくりなど地道な活動をしていきたいと思います。

(福嶋)

学校の視察

国際交流基金事業の欧州草の根交流として2003年11月9日から約10日間4名で英国のディスレクシア事情の視察をして参りました。視察の内容はディスレクシアに対応した教育を行っている公私立学校4校、民間の教師養成機関、英国ディスレクシア協会、ディスレクシア・インスティテュートなどで、現場の対応や教員やスタッフとの意見交換の場を多く持つことができ教材を含め数多くの情報を得ることが出来ました。また、15カ国の代表からなるEU委員会のミネルヴァプロジェクトの一員として大学におけるディスレクシアの生徒に対するITの活用についての会議に出席しました。今回は学校の様子をお知らせ致します。詳しくはウェブサイトに掲載予定です。(http://www.npo-edge.jp/)

公立校



(写真：シブフォード校シークエンスゲーム)

ブルーネル大学ワイデル先生が紹介して下さり、ロンドン郊外の公立小学校へ参りました。5歳から7歳くらいまではいっせいに授業を受けますが、8歳くらいからはほかの児童が英語の授業をしているときに各クラスからディスレクシアの児童が集められクラス6名から8名で特別な授業を受けます。

視察したクラスは小学校低学年で6名いました。40分くらいの間に先生の言った言葉を書き取る作業、ARの入った言葉(CARD、PARK、CAR、STAR)を見つける遊び、プラスチックで出来たアルファベットを並べる、6枚から8枚のカードで一つのストーリーの筋を作るシークエンス・ゲームなどをしていました。それぞれ10分くらいで完結するので飽きないで、楽しんでいました。

私立校

英国王室の子弟が通うことで有名なイートン校(Eton College)では8年前からディスレクシアへの対応が行われています。現在全校生徒1200人のうち約100名がディスレクシアであり、そのうち50名は個人授業を受け、あとの50名は合同で英語やPCの授業を受けています。



(写真：マークカレッジ・PCルーム)

オクスフォード郊外にあるシブフォード(Sibford)はクエーカー教の学校です。全寮制で特にディスレクシアに対応しているとは学校案内では謳っていませんが、6部屋からなるディスレクシア・ユニットがあり、数学、英語、PCの部屋とリソースルームがあります。昼休みはディスレクシアに限らず多くの生徒が利用しています。



(写真：マークカレッジ・ライブラリー)

ウェールズ地方にあるマーク(Mark College)カレッジは80人しか生徒がいない学校です。ディスレクシアの教育では大変有名なスティーブン・チン先生が設立した学校で、重いディスレクシアの生徒を中心に受け入れています。農家を買取り、作業小屋を図書館にワインセラーをパソコン教室に変えて牧歌的な雰囲気の中で学んでいます。(藤堂)

「LD・ディスレクシア講演会・LD疑似体験」の開催

緑豊かな山の中、園長である川越さんがご自分で設計した木造の園舎の特産品のゴザを敷いたホールで多くの方が熱心に参加して下さいました。男性の姿も多く、流石、宮崎初の保育士さんが催されたのだなあと感じました。お子さん達も自由に入出入りをして和気藹々(わきあいあい)と暖かな雰囲気の中で進められました。

ディスレクシアに限らず多くの学習の困難さは早期発見、早期対応をすることで、不自由な部分を得意な分野でカバーしていくことが可能になってゆきます。保育園や幼稚園に限らず、色々な年代の方たちを対象にこのような講演を続けることで、ディスレクシアの人たちが生きやすい世の中になっていくのではないかと思います。(藤堂)

小学校の体育館には大勢のお母さん、中にはお父さんの姿も見え、関心の高さをうかがわせました。LD疑似体験が和やかな雰囲気の中で無事終了後、講師の石田さんは「学習スタイル」の話に移り、それぞれの子どもには、「目に訴える学習」が良い場合(視覚認知が良好)と「耳に訴える学習」が良い場合(聴覚認知が良好)があり周囲の大人たちはその個性に気づき学習の仕方を工夫しよう、という話を時間がオーバーするほど熱心に語りました。寒さの中、皆さんたいへん集中して真剣に耳を傾けていたのがとても印象的でした。

最後に質問の時間をとりましたが、手をあげての質問は少なくむしろ個人的に質問をしたくて全ての終了を待っている方が何人かいらっしゃいました。以前にも同じような状況がありましたので今後工夫が必要かな・と感じました。(長田)

黎明高等学校は、前号のニュースレターなどでご紹介致しましたが、千葉の総武本線八街駅から歩いて行ける距離にある広い敷地の共学の高校です。今回の講座には、高校の先生方の他、八街市の教育委員会や近隣中学校の先生等50名以上の方がご参加下さいました。

LD疑似体験では、最初余裕を見せていた先生方にも自分だけが出来ない状況を体験していただきました。配布されたプリントが簡単に読めた先生方も、その印刷された字に意味があると聞いたとたん、書かれている事を読み解こうとする集中力は、やはり先生としての力を感じました。疑似体験で使用されている原文をご存知の先生もいらっしゃいました。後半は会長によるLDに関する講演と質問にあてられました。

今回の講座により、生徒の勉強が解らないと言う意味を、今後の教育現場で生かしていただけたと思います。(堀口)

品川区子育て支援センターの企画により、東急池上線戸越銀座駅近くのあんしんセンターにてLD疑似体験講座を行いました。保護者・教育・療育関係の皆さんに、出来ない時の子どもの気持ちになる事の難しさや大切さ等を体験していただきました。また、現在大変な思いで子育てをしていらっしゃる方々の声も聞くことができました。改めて早く安心して子育てできる環境を作らなければならない必要性を感じました。そして、この地域は庶民的な雰囲気の町ですので、きっと町全体で、子育て環境の整った理想の地域にしたいと信じております。(堀口)

宮崎県吉野保育園

2003年11月29日

参加人数 約150名

(保護者、教員、カウンセラー他)

LD疑似体験 石田博彰

講演 ディスレクシア児の親として

藤堂栄子

市原市立清水谷小学校

2003年12月3日

参加人数 約60名

(保護者、教員他)

LD疑似体験 石田博彰

千葉黎明高等学校

2003年12月8日

参加人数 約50名

(教員、教育委員会職員他)

LD疑似体験 石田博彰

講演 ディスレクシアとは

藤堂栄子

品川区子育て支援センター

2004年2月7日

参加人数 約60名

(保護者・教育・療育関係者他)

LD疑似体験 石田博彰

ディスレクシアに関する本の紹介

◆ 忘れてなんかない！ ディスレクシア～読む書く記憶するのが困難なLDの子どもたち

品川 裕香 (著) / 岩崎書店 / 1,300円+税

ー 読者の方から、大きな反響を頂いていますー

- 学校の先生だけでなく、家庭教師にも必読!!
- ディスレクシアを知らない人にもぜひ、読んでほしいです!!

(Amazon.co.jp カスタマーレポートより)

◆ Reading Through Colour: How Coloured Filters Can Reduce Reading Difficulty, Eye-Strain, and Headaches

Arnold J. Wilkins (著) / John Wiley & Sons Inc. / ¥3,838

「この本はとくに難解児のためのものというわけではありませんが、色つきのプラスチック板を読みものの上において読めば、数十パーセントの子どもが読みやすくなったという報告例などが記載されています」という情報を山田純教授(広島大学総合科学部)からいただきました。

【新聞・雑誌・書籍で紹介されました】

◆ るーぶる8号 (2004年冬号)

「子育て・子育て支援団体紹介」でEDGEが紹介されました。

◆ 週刊朝日 (2004年2月13日号)

「よみがえれ! 学舎」でみなとNPOハウスのEDGE事務所が紹介されました。

◆ STEP 英語情報 (2004年12月号)

特集記事「ことば」とは何か!? の中で品川裕香さんのルポ「やる気はあるのに“英語ができない”子どもたち」が掲載されました。

◆ 英検の教材

"Dyslexic artist's work an inspiring example" (THE DAILY YOMIURI-2003年9月9日)

「ディスレクシアの芸術家が人の気持ちに刺激を与える」というマッケンジーソープさんの記事が英検の教材になりました。

◆ リタリンをこえてーリタリンその効用と限界

SWガーバー、MDガーバー、RSスピッツマン (共著)、原 仁、篁 倫子(訳)SWガーバー、MDガーバー、RSスピッツマン (共著)、原 仁、篁 倫子 (訳) / 文教資料協会

リタリンがADHDに効くという神話は本当か? 多動な子はみんなADHDなの? 保護者、教員などにお勧めです。EDGEが支援団体として紹介されています。

2003年11月～2004年2月活動報告

11月9日(日) ～15日(土)	英国DX事情視察(国際交流基金助成事業)
29日(土)	LD入門講座、LD疑似体験、講演(宮崎県宮崎市吉野保育園)
12月3日(水)	LD入門講座、LD疑似体験(千葉県市原市清水谷小学校)
12月8日(月)	LD入門講座、LD疑似体験(千葉黎明高等学校)
1月20日(火)	雇用・能力開発機構東京センター、講師
2月1日(日)	東京個別指導学院(TKG)公開講座
7日(土)	LD入門講座、LD疑似体験、講演(品川区子育てセンター)
2月22日(日)	第3回総会 英国視察報告会

(DX:ディスレクシア、LD: Learning Disabilities、学習障害)



EDGEで販売しています
マッケンジー・ソープ カレンダー
1000円(スタンド付き7枚)

マッケンジー・ソープ 絵葉書セット
600円(8枚)

会員&ボランティア募集

只今EDGEでは、会員ならびに一緒に活動をしていただけるボランティアを募集しています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

2004年3月～4月 予定

3月6日(土) ～24日(水)	マッケンジー・ソープ絵画展 (岡山市紀伊國屋書店) 後援
27日(土) ～30日(火)	英国ディスレクシア協会国際会議 (英国ワーウィック) 出席
4月18日(日) ～20日(火)	神戸国際ディスレクシアシンポジウム協力

Report from the EDGE - 第5号 -

2004年3月10日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子 東京都港区六本木4-7-14
みなとNPOハウス4F

Tel.03-5413-3356 Fax.:03-5413-3358

編集 NPO法人EDGE事務局

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

info@npo-edge.jp